

リニア中央新幹線開業に向けた名古屋都心の再整備

1. はじめに

2027年のリニア中央新幹線の開業にあわせ、名古屋大都市圏の中核地区である名古屋駅周辺地区と栄地区の再整備が本格的に稼働し始めました。

リニア開業により、当地区の拠点性と利便性が飛躍的に向上することが期待されるため、当地区では産官学協働の推進体制で、この千載一遇のチャンスを最大限に活用すべく様々な取り組みが行われ始めています。

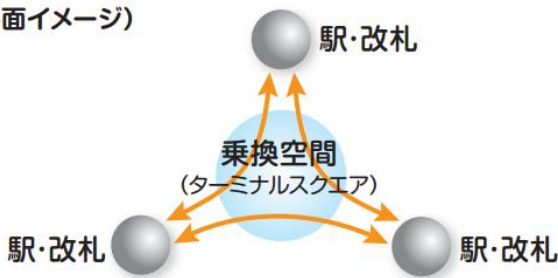
2. 名古屋駅周辺地区の取り組み

名古屋駅周辺地区は、現在も名古屋大都市圏の玄関口として、また業務核拠点地区として重要な機能を担っていますが、リニア開業を契機に、この機能を一層飛躍的に向上させることを目指しています。

当該地区では、既に名鉄名駅再開発計画が始動しはじめていることもあり、鉄道事業者を始めとする多様な主体が連携する「名古屋駅周辺まちづくり構想懇談会」を設置し、昨年9月に名古屋駅周辺地区のまちづくり構想を策定しました。

まちの目指すべき姿を「世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤ」とし、その実現のため「国際的・広域的な役割を担う圏域の拠点・顔を目指す」、「誰にも使いやすい国際レベルのターミナル駅をつくる」、「都心における多彩な魅力をもったまちをつくり、つないでいく」などを基本方針としています。

(平面イメージ)



(断面イメージ)



図 ターミナルスクウェアのイメージ

3. 栄地区の取り組み

従来、栄地区は名古屋都心の顔として、また商業・業務の集積拠点として圧倒的な知名度を誇っていましたが、最近、再開発が進む名古屋駅地区の機能更新に押され、相対的なポテンシャルの低下が懸念されています。

このような中、最近では、栄地区の中心にある久屋大通公園の再整備により、地域の魅力再生を図る取り組み動き始めました。その前哨として、「久屋大通再生社会実験」が平成26年11月下旬に実施されました。

この社会実験は、名古屋市が策定した栄地区グランドビジョンが掲げる方針の一つである「公共空間の再生」における「公園と道路と沿道施設との一体的なにぎわい空間」を実現することを目指したものです。地元の民間企業で構成される実行委員会が中心となり、久屋大通公園駐車場を一時的に閉鎖したイベント空間の創出、オープンカフェの拡充、マーケットの開催等、公共空間を活用した賑わい演出の各種実証を行いました。



図 久屋大通公園のエリア別空間イメージ

4. おわりに

以上の取り組みは、まだ始まったばかりです。2027年に向け、具体的な空間プランや資金計画、さらには法規制上の対処策等、多くの課題が山積です。千載一遇のチャンスを活かせるかどうかは、これからの努力次第。これからも名古屋都心から目が離せません。

(文責：日建設計総合研究所 安藤章)